

<p>社是 子どもの感性を育てる児童文化の 研究と普及・啓発(協会定款より)</p>	<p>東児協ニュース 第6号 令和3(2021)年10月15日</p>	<p>発行所：特定非営利活動法人 東京児童文化協会 発行人：理事長 脇 恵 編集者：大嶋 英二</p>
--	--	---

会員の皆様へ

令和3年10月15日

特定非営利活動法人 東京児童文化協会
理事長 脇 恵

緊急事態宣言が9月30日に解除となり、感染者数も減少傾向。徐々に、感染予防対策を図りながらも、様々な活動が再開し始めました。第6波が再びどの予測もあります。

いよいよ秋も深まり夜寒を覚えるこの頃、会員の皆様におかれましては、新型コロナ感染予防対策とともに、ご自愛のほど願っております。

1、活動報告

地域の子ども縁日に「遊びの出前」

コロナ、コロナで、夏休み中はおろか2学期になっても、普段の外遊びが全く制限されていた子ども達のために、東京のだ真ん中、新宿区の下落合四丁目町会の人たちが力を合わせて地域の公園を開放し、休日の午後のひと時に「遊びの広場」を企画してくれました。

コロナによる緊急事態宣言中ではありましたが、感染予防のマスク着用、手指の消毒、検温、ソーシャルディスタンスに配慮し、町会の役員の方々20～30人の方々のボランティアの協力を得て、子どもも大人も一緒になって安全・安心のイベントが展開しました。

新宿区地元の東京児童文化協会は、遊びの出前という事で、作って遊ぼう「ぶんぶんゴマづくり」「絵をかいて作ろう缶バッジ」「ペープサートで遊ぼう」のブースを担当しました。宇田川光男さん、内山則子さん、大嶋英二さん(地元の役員・この催事の企画者)の3人がそれぞれのコーナーでの手際の良い指導のもと、子どもは勿論、大人も一緒になって大喜びの体験を楽しんでいました。

缶バッジづくりでは、思い思いのイラストを描き、それがバッジとして完成すると「マイバッジ、最高・・・」と大はしゃぎで、自慢げに胸につけて大喜びでした。



ぶんぶんゴマづくりでは、丸い形の厚紙にそれぞれ色のマーカーで着色し、穴を二つ開けて糸を通し、いざ回してみると、なかなか思うようには回りません。先生が回すと、不思議にブンブンと音が出るほど軽快に回ります。

何度も挑戦し、それでもうまくいかず、イライラしながらも、やっとうまく回った時の嬉しそうな笑顔・・・不安げに見ていたママも。ホットした様子で「私も作ろうかな？」と挑戦、親子で向かい合って回し合って、嬉しそう。

帰りがけにおみやげのうちわを貰って、作ったおもちゃを大切に持ちながら親子の会話が弾む。これが児童文化の一つの活動の姿かなと、ふっと頭をよぎる場面でした。コロナの関係で、綿あめや、ホットドッグなどの食べ物はなくても、十分楽しい遊びの広場が展開していました。主催者側ではこのご時世、せいぜい集まっても100人前後との予想をはるかに越えての集いとなったようです。(脇) (裏面へ)



2021年9月15日
下落合公園「納涼まつり」

参加者195名
うち、子ども120名

会員皆さまの「最近の活動」が
ございましたら、是非、
お知らせ下さい!

大嶋(事務局) 宇田川先生
協 理事長 内山さん

東児協ニュース・会員相互の情報交換記事

様々な記事をいただきました。アランダムですがご紹介します。まだ、現在の近況や活動、思い出、なんでも自由です。ぜひ、お知らせ下さい。(敬称略)

宇田川 光雄

私は、今から53年前に「校庭開放指導員」として、大学の授業で習った遊びを小学校の校庭で遊ぶアルバイトをしていました。3ヶ月ごとに目黒区の小学校を回る活動を社会教育課の前田裕由氏の指導で展開していました。その時、全国子ども会連合会で「第一回全国子ども会年少指導者研究集会」が開催されました。前田先生は子ども会の指導者でもあり、私をグループ・リーダーに紹介してくれました。

その時のメンバーが、長谷川実彰先輩・恩田正身先輩・坂田美佐子先輩等でありました。(ご存知の通り、長谷川先輩と美佐子さんは結ばれました)一番学年が低い私は皆の活動について行くのが精一杯でありました。

その時に、小菅知三先生・脇恵先生と出会うのであります。その出会いが東京児童文化研究会でのお手伝いへと発展しました。全国子ども会連合会の年少指導者研究集会がなければこの出会いは実現しなかった。卒業後、日本レク協会で淑徳文化生活文化専門学校に出向し、全子連へ転職して常務理事・事務局長を末吉裕郎氏退任後に拝命しました。定年退職し、国立山口徳地青少年の家所長を歴任し、目白大学こども学科で教鞭を執り現在に至ります。

73才で目白大学は定年ですので、来春退官します。

今後はどうするかを考えて第一回年少指導者研究集会で習った「ペープサート」を児童館などで演じるボランティアを続けていこうと考えていました。しかし、コロナ禍で活動は延期・中止を余儀なくされて東京児童文化協会のホームページに15年前の日天さん月天さんの映像を載せていただきました。これからはペープサートを中心にしながら、児童文化とは何にかについて考えていきたいと思えます。

現在女房一人と子ども2人と孫一人です。3つの世帯でそれぞれ暮らしています。孫は大学2年生になりました。時々尋ねてきてくれて女房といろいろと話をしています。

看護学生です。卒業する頃にはコロナウイルスは終焉していることを祈ります。



現在の身辺雑記(雑感)です。

コロナ禍により歌唱を伴う音楽活動が規制せられて
なりました。歌や声を出す事は飛沫が生じるから音楽は
中止!! 手を叩くことや楽器を使う事は接触感染
が心配だから禁止等-----様々な規制の中で
この一年間は音楽活動が殆ど出来ない状態になりました。

しかし、音楽は人の心を和ませ、人と人を結び付け、
リフレッシュ支援の主旨である「人の心を元気にする」
が出来ず。
自粛生活が長引く人々が人身其の疲弊している中

「音楽で人を元気にしたい」と願うから私は
感染症予防を行いつながる音楽活動を共に
楽しみたいと思っております。

1. リズム遊び、2. 動作遊び(歌と動作で表現する)
 3. 感染症対策を講じたゲーム遊び。
- 工夫を凝らしているところです。千葉 佑

暑い日がつづいておりましたが、いづつか秋風を感じるよう
になりました。

事務局のみなさまにはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し
あげます。

子ども会、児童文化協会に実りをもたらせていただき、色々学ぶことが
出来た事に対し感謝しております。

現在半年も94才(節子連創立を記念に祝っていただきました。)今は
家にこもり健康管理に専念しております。昔がなつかしいです。
神楽坂の上とあつた事務局へはよく通っていますね。

事務局の方々は大変ですが、大嶋様、どうぞこれからもよろしくお願ひ
申し上げます。(佐々木あい子)

愛唱歌や童謡の会、合唱団の指導をさせて頂いています。

10年程前、大和市の学習支援スクールアシスタントとして、小学校で6年間、中学校で2年間支援をしました。普通教室内で困っている児童、生徒への支援で個別指導も多い学校でしたので、短い教員経験だけだとよく、勝カ先生に教えていただいたことや、活動で学んだことが役に立ち、学ぶ喜びを子ども達と共に感じる日々でした。

今は歌を通して、主にシルバーエイジ皆さんと社会の中で元気に生活することを目指していますが、コロナ禍で活動に制限もあるので

YouTube「Keiko Tusaの楽しく歌いましょう」を配信して、ご自宅でも歌を楽しんでいただけるようにしています。オリジナル曲「手洗いの歌(手洗いの動作付き)」も配信しています。

子どもの育成に関わって50年

恩田 正身

まずもって、心より小菅知三先生のご冥福をお祈り申し上げます。本当にお世話になりました。数々のご指導ありがとうございました。

大学2年の夏に脇先生の誘いで東京児童文化研究会に入会してほぼ50年になる。半世紀前のこと。保田林間子ども会、近江神宮林間学校、赤城少年文化教室、高尾山合宿、明治神宮キャンプファイヤー、四街道巡回子ども会、杉の子子ども会リーダーズクラブなどなど。思い返すと児童文化漬けの毎日だった。その間、小菅、脇両先生を始め多くの皆様からご指導等をいただいた。感謝の気持ちで一杯である。

このご縁で新潟に戻っても細々とではあるが「児童文化、子ども育成」の道を歩むことができた。小学校教員をしながら赴任した先々で子ども会活動をしたり、私が住んでいる町内会でふれあい活動(子どもだけでは人数が少ない)をしたりした。地元勤務になったころ、全国読書キャラバンを糸魚川でということになり、十数年取り組んだ。定年退職後、一時期、A4に収まらない役職等に振り回されたが、おかげで、人権擁護委員、児童館、放課後児童クラブなどにも関わり、道を外れずに現在に至っている。

今は、人権擁護委員、まちづくり事務局、大王あじさい園の世話、障がい者施設ボランティア、一番手のかかる孫(3人)の子守りなどで毎日が過ぎている。

